

川南町議会・令和8年6月定例会一般質問【蓑原 敏朗 議員】

○議員（蓑原 敏朗議員） さきに通告いたしました質問要旨、通告に基づき質問させていただきます。

今回は、さきに公表されました第6次川南町長期総合計画、後期基本計画及び関連しての人口の動向と見通しを中心にお尋ねいたします。

最初に、各種計画を策定される上での元となる人口に関連してお伺いします。

公表資料の中でも、人口は町の総合戦略の根幹をなす要素だと述べられています。全くそのとおりで、各種計画立案においては、人口や利用人口を予測して実施すべきことは言うまでもありませんし、各種施策推進にも当然考慮すべきことです。大変残念なことです、本町人口は毎年減り続けています。

今回の人口の動向は、国立社会保障人口問題研究所、いわゆる社人研のデータ、ほか4つの仮定により独自に推計されていますが、いずれも将来予測では人口は減り続けるとされています。確かに、現況の各種統計やデータをもとに、何も対策を講じないで推計すると、そうなるのでしょう。しかしながら、今回の人口動向と見通しは、将来人口を単に推計することだけが目的ではなく、町の将来に生かす、言い換えるならば人口減少動向に警鐘を鳴らし、危機感を共有しましょうということでもあるのではと思っていますし、町行政としては、人口減少をいかに食い止めるかにフォーカスし、長期総合計画、基本構想を策定して、持続可能なまちづくりにつなげられるのだらうと理解しています。ところで、このまま人口推計のように人口減少が続けば、本町はどうなるのか、様々なことが予想されますが、町長はどのような事象が生じるのか、どんなまちになっていくのかと考えておられますか。まずそのことをお尋ねいたします。あとの質問は、質問席でさせていただきます。

○町長（宮崎 吉敏君） 蓑原議員の質問にお答えいたします。

人口減少、現在、自然環境、それから社会的環境等が懸念されますが、川南町にとって人口減少というのは最大の課題であると認識しております。

以上です。

○議員（蓑原 敏朗議員） どんな町になっていくのでしょうか、どんなデメリットがあるのか、どういうことが考えられるのでしょうか、ということをお尋ねしたつもりなんですけど。

○町長（宮崎 吉敏君） 蓑原議員の御質問にお答えします。

人口減少とそれに伴う少子高齢化の進行は、地域経済の縮小やコミュニティの維持、さらには行政サービスの低下を招くことも懸念されることから、先ほど言いました、本町の最重要課題であると認識しております。まずは、社会減に対しては、地場産業の振興や企業誘致による安定した雇用の創出が最も有効な手段であると考えています。同時に、自然減に対しては、切れ目のない子育て支援や教育環境の充実を図ること、特に現在進めている新中学校の統合はまさに重要であると考えます。さらに、もう一步踏み込んだ子育て世帯への支援

について現在検討しているところです。

以上です。

○議員（蓑原 敏朗議員） どういうことになるんでしょうかということだけをお聞きしたかったんですけど、町長おっしゃったように、地域コミュニティが壊れたり、そうすると町全体が各種活動も停滞するでしょうし、そうすると町の勢いが衰える。そうすると、町長は行政サービスの低下というふうにおっしゃいましたけど、当然、町民の満足度等も下がってくるんだろうというふうにも私も全く同感です。ただ、現状を正しく認識してこそ、残念ながら減っているという現状を正しく認識してこそ、その対策も見えてくるんだろうと思うんですよ。町長が8年度予算提案されるときに冒頭におっしゃいましたけど、EBPM、エビデンス・ベスト・ポリシー・メイキング、全くその通りで、現状認識を勝手な解釈じゃなくて、正しく認識してこそ、正しい政策も打てるんだろうと思うんですよ。町長、最大の懸念事項というふうにお答えですけど、全くそのとおりです。ただ、どのような検討対策が急務であることは間違いないんですけど、この計画、基本構想を実施計画につなげないと意味がないと思うんです。いかがでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 蓑原議員の質問にお答えします。

全くそのとおりであると認識しています。

以上です。

○議員（蓑原 敏朗議員） 全く私も同感です。ただ、この計画の中で、先ほど来申し上げましたけど、人口は最もいろんなことを進める上で考慮すべき要素であると思うんですよね。この計画なり見してもらいましたが、どこにも目標人口というんですか、みたいなこと、何人で死守するんだというようなことは出てないようなんです。町長、以前私が似たような質問をしたとき、町長、私見だという枕言葉はお付けになりましたけど、1万2,000はということをおっしゃったと思うんですけど、できるだけじゃなくて、目標人口というのはやはり設定すべきではないんでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 蓑原議員の御質問にお答えします。

本町が現在の行政サービス、コミュニティ、地域経済を維持し、持続可能な自治体であるには、1万人が限界ではないかと考えます。宮崎県の人口推計が、5月26日の宮崎日日新聞にて、2040年には現在の101万7,000人から86万5,000人に減少すると発表されています。本町においても、第6次長期総合計画の中で、2040年には1万人に減少すると推計しています。この1万人、これを下回る段階から、行政サービスの低下、コミュニティの減退、地域経済の縮小といった影響が出てくるのではないかと考えています。1万人を維持するために、最大限の努力をしてみたいです。そのためにも、町民満足度向上に努めてまいります。

以上です。

○議員（蓑原 敏朗議員） できましたら何かの機会に、私も何人が適当かよく分かりませんが、その1万人とかいうのを明示して、できるできないじゃなくて、それに向かって努

力することが必要、邁進することが必要だと考えるんです。

町長は高校時代ラグビーされていたとのことですが、厳しい練習をされたんでしょうけど、花園があるから厳しい練習にも耐えられるでしょうし、高校野球でいえば甲子園が目指しているからこそ厳しい練習も耐えられるのだろーと思うんですよ。目標を設定していないと、行き当たりばったりの行政になるんじゃないかというふうに心配するわけです。ぜひどこかに明示して、できるできないじゃなくて、やるべきだと考えております。ぜひお願いしておきます。

次に行きます。計画を見ると、これの一番最後に人口減少を前提してのことなんじゃないか。目指すべき方向性として広域連携の強化を上げられています。また、町長は昨年の西都児湯市町村議会議員の研修の歓迎挨拶の中で、これからは広域連携が必要だという挨拶の中で述べられたと思いますが、何か具体案がございますでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 蓑原議員の御質問にお答えします。

現在、国のほうでも地方制度調査会において、国、都道府県、市町村の役割分担の在り方が議論されています。地方公共団体の事務の現状について、人口減少に対処するための事務の増大や、社会情勢等の変化に伴う行政需要の多様化、複雑化等を課題として上げているようですが、具体的な制度改正における方向性も決まっていない状況です。

以上です。

○議員（蓑原 敏朗議員） 要請はいろいろ言われているけれど、具体的にはまだ何も決まっていないよというふうに理解いたしました。ここで、ちょっと教育長にお尋ねいたします。

文部科学省は、公立小学校の統廃合の手引きの再検討に着手したという報道が、先日、新聞に載っておりました。中を見ますと、学校規模については、従来どおり12学級から18学級。ただ、通学距離については、依然小学校4キロ、中学校6キロだったのを、マイクロバスを利用して、おおむね1時間以内というふうに変更されたようです。結果、自治体を超えての連携もその中では唱えられていますし、小学校の施設整備、先ほど同僚議員の質問でもありましたけど、現在進もうとしている中学校の統合についても影響があるのかなというふうに思っているんですけど、この文部省の動きというのは、教育長は御存じでしょうか。

○教育長（平野 博康君） 蓑原議員の御質問にお答えいたします。

議員からお話がありましたように、平成27年に文部科学省から出されました、公立小学校、中学校の適正規模・適正配置等に関する手引きを調査研究協力者会議の議論をもとに今後改定するということにつきましては、先日、文部科学省からの行政説明でお聞きしたところがございます。その中では、広域化という観点につきましても盛り込むというお話がございました。全国では、既に複数の自治体が共同で運営する組合立学校というのが設置されているケースもございます。本町周辺の自治体におきましては、自治体内での学校の在り方についての検討をしているところでありまして、また、その情報交換をしているところでありまして、現時点で広域連携による学校の統廃合についての検討をしたことはございません。

以上でございます。

○議員（蓑原 敏朗議員） 今回の文科省の検討というのは、裏に財務省の強い意見が入っているように聞いております。財務省が、小中の施設整備計画の中には統廃合を入れなさいという指示をしているような報道も書いてあるようです。

実は、私は中学校は、教育長おっしゃった組合立の中学校を卒業していますので、不自然性はあまり感じないのですが、何の不都合もなかったものですから。今後は、文部省は教員不足、倍率等は下がっていますよね。応募者等の。と思われまして、統廃合を促したいという有識者会議の意見も出ているようです。注意深く見守ることが必要なのだらうと思っています。よろしくお願いいたします。

本町でも、現に幾つかの事業について御存じのように、ごみ処理とかし尿処理とか、こういう死体の火葬というんですか、いろんな事業を広域で行っており、効果も上がっていると思っているんですよね。このまま人口減少が進めばさらに広域化という問題も出てくるのかもしれないけど、ただ、先ほど地方制度調査会というお話がありましたけど、我々議員についても調査会の中ではもう選挙ではなくて任命制度にという意見とか、広域水平観察というんですか、簡単にいうと川南町が都農町の行政も見る。逆に都農町を川南町の行政も議会の役割をするというようなことも、地方制度調査会の中ではあくまで検討ですけどされているように聞いております。このままでいくと過去の合併、あまりいい話は聞きませんが、また合併論議も起こってくるのかなというような気もしております。ただ、そこは取捨選択は行政として当然責任を持ってする必要があると思うんですね。最終的に決めるのは学校の、仮に都農町と川南町が同じ組合立で学校を作る、その判断をするのは自治体ですから、そこは責任を持って判断していただきたいと思います。注意すべきことは、広域連携等によってダウンサイジングとか策が取って、地域の人口減少に拍車をかけるようなことでは本末転倒だと思うんですね。町長、どのようにお考えでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 蓑原議員の御質問にお答えします。

現在、現行制度における可能な範囲で、こういう地域における広域連携について協議が始まったところです。

具体的な案については、本町の職員に対し調査を行いました。意見のありました事業や施策について精査し、児湯地域の中の協議の場に諮ることになると思います。現在、児湯の町村町会で広域連携の諮問機関を作るということで、近々そういった場を設けるということになっております。その中で各町から出てきた意見を踏まえながら、広域連携に取り組んでいきたいと思っています。

以上です。

○議員（蓑原 敏朗議員） 広域連携を全否定するつもりは全くありません。ただ、先ほど言いましたが、それが逆効果で地域が衰退したり、その結果、全体が沈没したりすることのないよう、町長よく御利用いただきたいと思います。

次に、この計画について、ちょっと中身について触れさせていただきたいと思います。

この広域計画や人口動向、大変上品でスマートに出来上がっていると思います。お聞きしましたら、ぎょうせいという会社が関与されているそうですが、国の動きもうまく計画の中に散りばめられており、大変立派な計画構想だと思います。ただ、実行、実際の効果が伴わなければ何なりませんよね。いわゆる絵に描いた餅であってはならないと思うわけです。

そこで、今回の計画、尋ねていきますけど、いっぱいありますけど、特に人口関連について絞ってお尋ねいたします。何箇所かシティプロモーションという言葉が出てきます。どういったことを意図していच्छやるんでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 蓑原議員の御質問にお答えいたします。

これまで、ホームページでの発信や広報誌の発行、ふるさと納税での本町の情報発信等に努めてきました。今後はこれまでの取組をもう一度見直し、移住定住につながる本町の魅力を伝える方法等について工夫をしていきたいと考えております。

以上です。

○議員（蓑原 敏朗議員） 確かにPR活動というのは何事にも必要だと思います。ただ、ここで大変重要だと私が思うのは、PRに沿った、に耐えうる内容のほうがもっと大事だと思うんですよね。実質的町の価値を上げることこそ必要なんではないんでしょうかね。いわゆる口だけ、行ってみたら違ったよということでは実態とPR、プロモーションが乖離しては、かえって結果的にマイナスになるんでしょうし、長い目で見ると例えが悪いですけど狼少年的なことではどうもならないと思うんですよね。そういうことで、かえって信頼を失うと思うんです。もっと川南町の魅力向上というんですか、価値向上に努めることにプロモーション活動以上に努力いただきたいと思うわけです。

1つの例で適当かどうか分かりませんが、私、山形県の米沢というところの市長さんと話したことがあります。あそこは米沢牛というのが有名ですので、どうやってブランドづくりに努力されたんですかということを探ねたら、うちで言う産業推進課長を呼んでくださって、どんな努力したんだいって探ねたら、市としては何もやっていませんと。昔から、いわゆる仲買業者、幕僚という言葉を使われましたけど、たちが農家にノウハウとか資料とかを与えて、その結果、米沢牛というブランドが出来上がったもので、牛の価値が高まったからそうになったのではないんでしょうかという市長さんのお話でした。市としては、余談ですけどコイとコメを売りたいんだけど、あんまり売れんでねえということを申された記憶があります。やはり、実質的魅力に力を入れるべきだと思うんですよね。多分、今、市町村ランキングとかよく報道されるではないですか。住みよい町ランキングとか子育ての町ランキングとか、それはいろんなことの積み重ねた魅力を上げた結果がそのランキングにつながっているんだろうと思うんですよね。ただ、PRだけではなくて実質的な価値を高めることが私は必要だと思うんです。1つの例ですけど、今年から入学祝い金等をお止めになられたけど、それに逆行するのではないのかなという、もちろん財政的ないろんな事情があるんでしょうけど、

都城ほどでなくても頑張る姿勢がいわゆる魅力向上につながるのではないかなと思うんですけど、町長どのようにお考えですか。

○町長（宮崎 吉敏君） 私が町長選で掲げた公約が、「輝き魅力あふれるまちづくり」と、まさに川南町の魅力をどこまで高めていくか、そのことに全力で取り組んでいきたいと思っています。シティプロモーションの在り方ということについても指摘されました。単に見栄えのよい情報発信や一時的なPRのみを発行させるものであってはいけないと考えております。発信するメッセージと実際の町民生活や行政サービスの質という実態が伴わなければ、一時的に注目を集めても本当の人口対策には結びつかないと自覚しています。情報発信の強化と連動させる形で、その土台となる子育て環境の拡充、雇用の維持・創出、地域コミュニティの活性化など本町の生活の質そのものを高める施策を進める必要があります。言葉だけのプロモーションでなく、町民の皆様が誇りを持ち、移住者が町の魅力に惹きつけられるまちづくりに進めてまいります。

先ほど、ここには質問でなかったのですが、学校の奨励金等については、今、川南町だけではなく国自体が子供の支援というのをしっかりと充実させてきております。そのことも踏まえて、お祝い金の支給というのは見直させていただきました。

以上です。

○議長（中村 昭人議員） しばらく休憩します。10分間休憩します。

午後 2 時14分休憩

.....

午後 2 時24分再開

○議長（中村 昭人議員） 会議を再開します。

休憩前に引き続き、一般質問を続行します。

○議員（蓑原 敏朗議員） シティプロモーション同様、実質的に町の価値、魅力を上げることに努力されるということで、ぜひ頑張ってください。

次に、関係人口の創出に触れさせていただきます。

関係人口の創出、施策に掲げられていますが、どのように増やし、また、その関係人口調整にどのように活かされるおつもりなのでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 蓑原議員の御質問にお答えいたします。

関係人口につきましては、定住に向けた最初の心理的なハードルを少しでも下げ、本町との接点を細くとも長くつないでいくための大切な一歩として位置づけている点にあります。いきなりの移住が難しい時代だからこそ、まずは応援してくださる方を増やし、そこから段階的に地域のファンを育てていくステップが必要であると考えています。したがって、この施策におきましては単に関わる人の数を追い求めるのではなく、その中から将来的に、2 地域居住や本格的な移住、あるいは地元の産業を支えてくださるような一歩を踏み込んだ関係へとどのように導いていけるか、そのロードマップを明確に描き、管理していくことに主眼

を置いています。

以上です。

○議員（蓑原 敏朗議員） 町長のおっしゃる意味は何となく分かりましたが、果たしてそれが定住人口に簡単につながるのかなという気は正直しております。高市総理の言葉をお借りすれば、そんなことより定住人口を重視すべきではないかなという気がします。転出者の減少対策とかもおっしゃいましたが、社会動態の改善にもっともっと力を入れるべきではないのでしょうかね。本町の人口動態を見てみますと、割合的にはずっと自然動態のマイナスが大きかったわけです。気になりますのが、ここ最近、社会動態における現象が年々飛躍的に増加してきております。2022年以前は年に3、40人だったんです。現象が。ところが一度、これ外国人か何かを入れたときなんでしょうかね、プラス23人ということがありました。これは大変喜ばしいことだと思ったわけですけど喜びも束の間、一昨年がマイナス93人、社会動態だけです。昨年は108人と、私が統計を取り始めて、初めて3桁の現象となりました。今年も1月から4月、4月が一番減るんですけどね、本町の場合。4カ月で既にマイナス69人です。ちなみに、自然動態は4カ月でマイナス64人となっており、社会動態の4カ月間だけで見ると社会動態のマイナスのほうが大きいわけです。この社会動態の減少、転出者を減らすということにもっともっと力を注ぐべきではないのでしょうか。いかがでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 蓑原議員の質問にお答えします。

蓑原議員の御指摘のとおり、しっかりと今の現状を踏まえて対策を打っていきたいと思います。

以上です。

○議員（蓑原 敏朗議員） 現状を見る限りそのことに、正直私も答えを持っているわけはありませんので、これ以上は言いませんけれど、ぜひそのことに力を注いでいただきたいと思います。転出理由の把握ですけど、以前、転出者を対象にやるとおっしゃって、途中でどうなっていますかとお聞きしたら、まだサンプルが少なくて、ちょっと報告できるような数字はないんですよ、といったことでしたが、今は、現段階でどうなっているのでしょうか。

○まちづくり課長（甲斐 玲君） 転出者に対するアンケートについてですけども、本年度になって私がちょっと把握しているものはありません。

以上です。

○議員（蓑原 敏朗議員） ということは、やるつもりはないという理解でよろしいのでしょうかね。

○まちづくり課長（甲斐 玲君） そもそもが転出される方々ですので、なかなか町に対する協力というのが、急いでおられることもあって難しいというような話は聞いております。ですが、把握できるようなタイミングがあれば、ちょっと考えていきたいと思います。

以上です。

○議員（蓑原 敏朗議員） 私もそうだろうと思います。転出される方、いろんな手続に急いでいらっしゃると思いますが、難しいことはあるんですけど、でも、それだったら「なかなか難しいです」って最初から言っていただければ理解するんですけど、「やります」とおっしゃっていて、その場逃れではないんでしょうけど、そう言われるとちょっと議会発言として不信感を招かざると思いますので、ぜひその辺は注意していただきたいと思いますし、先ほども言いましたけどEBPM、やはり理由が分からないと正しい対策は構築できないんでしょうから、ぜひその辺は何か別な方法でも探るようにしていただきたいと思うわけです。学業は別として、もちろん一旗を上げようと、ある意味、志を持って町を出られる方もおられると思うんですよ。嫌とかそういうことではなくて。一方、川南町には愛着があるが、どうしても出ていかざるを得ないという人もおられるかと思います。そういった方はやっぱり探る必要があるのではないかと思うんですよ。原因は分からないということですから、推測で言えば私は仕事がない、食べていける仕事がないから、そういった方は出ていかれるんだろうと思うんですよ。その辺は、私は以前から申し上げておりますけど、第1次産業を歴史的、自然的条件を考えてやはり農業だと思うんですよ。農業を中心に経済的好循環を生み出す必要があると思うんです。町長いかがでしょうか。また、これ以外にほかに仕事を生み出す方法があれば別ですけど、もしあれば教えてください。

○町長（宮崎 吉敏君） 蓑原議員の質問にお答えいたします。

まず、第6次長期計画の後期に対して策定した第1次産業、とりわけ農業、それから畜産業の所得を上げる。これを第1に掲げております。そのことが川南町を豊かにし、そのことで商工業等にもつながっていくと考えておりますので、しっかりと第1次産業、農業、畜産業を支援してまいりたいと思います。

以上です。

○議員（蓑原 敏朗議員） これまで以上に農業、畜産業等に力を入れられるというふうに理解しておきます。では、なぜそんな第1次産業に力を入れないかんのかと。この計画の中でも後継者難が上がっていますけど、なぜなのでしょうかね。簡単で、農業でなくていろんな産業についてもいるんですけど、家業、商業も含めてですけど、担い手不足が言われます。やはり一番は、儲からないからだと思うんですよ。よく事業継承とかいう言葉もありますけど、儲からないことに事業継承と言っても誰も手を挙げないと思うんですよ。儲かるための制度、仕組み、構築、支援が必要だと思うんですけど、いかがでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 蓑原議員の質問にお答えします。

まさに議員がおっしゃるように、儲かる農業へのこれが一番大事だと思っています。後継者不足の解消には、儲かる農業への転換が不可欠であると認識しています。高付加価値化や販路拡大、スマート農業の導入などを推進し、安定した所得を確保できるよう支援したいと考えています。

以上です。

○議員（蓑原 敏朗議員） 大変難しいことだとは十分理解しています。ぜひその辺頑張っていたきたいと思います。ただ、「支援していきます」「応援します」というのは簡単でできるんですけど、できたらいつくらいまでとか期限を設けないと、人間苦しんでいたり辛かったらいつまでも我慢できないし、耐えられません。先がいつまでとか分かったり希望が見えて、明かりが見えておれば、ある程度は耐えて頑張れると思うんですよね。応援する姿勢を示すだけでなく具体性を持ってできたら、実施計画等でつなげていただけたらと思います。頑張る農家でいえば、大規模でなくても基盤整備、小さな土地改良等にでも町単独でも補助してあげるとか、地域営農に取り組む方たちもかなり高齢化しています。それらの方への生産基盤への行政への関与とか応援とか、ぜひそういう目に見えるような形の応援も必要ではないでしょうか。以前、漁業で漁魚を入れたことがあります。なぜか3年で辞められました。なんで辞めるのと聞いたら、「効果がよく分からんから」確かにそうだったのでしょけど、漁家は大変期待していたわけですよ。ぜひ続けて農家と一緒に応援するというような姿勢も必要なのではないでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 蓑原議員の質問にお答えいたします。

まず、儲かる農業が一体どういう形なのかというのを、しっかりとJAみやざき尾鈴地区本部と打ち合わせの上、描いていきたい。ただ、行政側で考える考え方と、実際に農家の方々の考えという擦り合わせが非常に厳しいというところも感じています。だからといって農業所得の所得アップ、向上については、しっかりと当事者の方々の意見も踏まえながら、対策を打っていきたいと思います。

以上です。

○議員（蓑原 敏朗議員） ぜひ、お願いしたい。

○議長（中村 昭人議員） 発言許可をお願いいたします。

○議員（蓑原 敏朗議員） 蓑原敏朗。すみません。

最近、よくプッシュ型支援という言葉が使われます。簡単に言うと、当事者が相談したり、何かを言っている前に事前に支援、応援、指導するということだと思うんですよね。農家はその日暮らしと言ったら悪いんですけど、毎年、毎年が勝負です。ぜひ行政側がその辺を察知して、事前に一歩前、半歩前を行って、いろんな調査、情報等を持ってくる必要があると思うんですよね。最近、気候も変わってきております。同じ作物を作るにしても、やり方が変わってくるんだろうと思うんですよね。その辺の、毎年同じときに種を蒔いて、同じ年に水をやってではなくて、その辺の調査等も必要でしょうし、前の産業推進課長が僕に教えてくれたことがありますけど、和歌山県のみなべ町ですよ。あそこで、南高梅の一番日本の生産地ですが、今、マカダミアナッツの栽培に取り組んでいると、日本一の産地がそんなことをやっているんですよ。ぜひ、現状に満足するのではなくて、そういったこともトライしていただきたいと思うんですよね。

新富町では御存知かも知れませんがバニラの生産をというのを、これ業者さん主導か

も分かりませんが、やっております。農家は毎年が勝負です。研究とか調査の余地もあまりないと思うんですね。ぜひ、行政がその辺の役割を果たしていただきたいと思うんですけど、いかがでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 蓑原議員の質問にお答えいたします。

一番大事な基本的な考えというのは、現状をよく知る農家の方々の意見を最大限承りながら次のための、将来のためにしっかりと施策を打っていくと、そのように考えておりますので、まず、農家の方々の対話を最重視して行いたいと思います。

以上です。

○議員（蓑原 敏朗議員） お願いします。基本目標3の中で、関連事業部関連計画を掲げられております。過去の事業を続けられているものもありますけど、3月議会でも少し触れましたけど、送料無料助成事業は上がっておりません。なぜ辞められたんでしょうかね。これは農家だけでなく生産者等に新たな意欲とかを喚起させるよい事業だったと思いますし、特に農家には行政が支援していると。希望や勇気や実質性を持たせたよい事業だったと思うんですけど、なぜなんでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 蓑原議員の御質問にお答えいたします。

送料助成事業につきましては、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を財源に、令和2年度から町内産品の販路拡大や生産者支援策として多くの皆様に御利用いただき、一定の効果があったものと認識しております。今回、令和8年3月31日をもって、川南町特産品送料助成金交付要項に定める事業期間が終了することに伴い、事業目的の達成度、公平性、公益性等について総合的に検証した結果、要項のとおり、令和7年度末をもって終了する判断をいたしました。今後は、過去に実施した事業の成果を考慮し、より持続可能で効果的な支援策について検討してまいります。

以上です。

○議員（蓑原 敏朗議員） いろいろ考えておっしゃったから、考えてされたのでしょうか、ほかの事業でまた過去から続いている事業もあります。ちょっと今日は時間がありませんから、またの機会にしますけど、私、町議になって初めてこの件に関していろんな方から電話を頂きました。初めての多さだったです。その中で、電話の中である方が「ほかの町議に聞いたら、町長はこの事業の代わりの事業を考えているようですよ」という返答を頂いたが、本当でしょうか」という質問がありました。事実なのでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 蓑原議員の質問にお答えします。

先ほども答弁しましたように、しっかりと検証を行い、また、それに代わるもの等があれば検討していくと。「やります」という言葉ではなくて、今後検討してまいりますというような言葉だったと認識しています。

以上です。

○議員（蓑原 敏朗議員） ぜひ、送料無料事業の効果等を再検討される場合、あった意見

も多いということをぜひ頭の隅でも置いて、またぜひ生まれ変わらせてくださると大変ありがたいと思います。今のような補助金の在り方は、いろんな制度がありますけど、真面目でないといったら誤弊がありますけど、適当な人は、ちゃらんぽらんの人は別ですけど、普通に真面目にやっている方は農業が続けられるようなシステムは考えていかないと川南町の農業の将来は暗いものだと思うんですよ。ぜひ、大変だというのは私も分かります。答えを持っているわけではありませんで、ぜひ頑張ってください。生活支援でなく、前も言ったような気がしますけど、魚を与えるのではなく、魚の釣り方を教えるような制度設計にしていきたいと思うのですけど、いかがでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 蓑原議員の質問にお答えいたします。

先ほど言いました公益・公平等をしっかりと考えて、川南町が行っている補助事業というのはまだほかにもたくさんあります。そういったもののバランス等も含めて、しっかりと今後、生産者等に、事業者等に関わる支援というのは考えていきたいと思っています。

以上です。

○議員（蓑原 敏朗議員） 人口減少対策とも、それに綿密につながると思うのですけど、産業対策は本当に困難で難しいと思うのですよ。でも、やらないわけにいけないと。病気に例えて恐縮ですけど、重くならない上、重篤になる前に手だてを、病気では打つのが必要と言われております。大変でしょうけど、早期発見・早期対策で臨んでいただきたいと思います。いかがですか。

○町長（宮崎 吉敏君） 蓑原議員の質問にお答えします。

時機を失しないように、そこはしっかりと捉えて前向きに検討してまいります。

以上です。

○議員（蓑原 敏朗議員） 総合計画は町の各種計画の最上位に位置し、町の規範・基本になるものと理解しております。まだまだお尋ねしたいことがあったし、私、今日も幾つか抜かしておるのですけど、時間の都合でできませんので、また後日させていただきます。何か、町長、御意見があれば伺って、私の質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○町長（宮崎 吉敏君） 町が抱える様々な課題というのは全てやっぱり、町民に寄り添う、事業者に寄り添う、そのことが一番大事だと思っていますので、たくさんの方々の御意見を賜りながら進めていきたいと思っています。

以上です。

○議長（中村 昭人議員） これをもちまして、本日の一般質問を終了します。

以上で、本日の日程は全部終了しました。

本日は、これで散会します。皆様、お疲れさまでした。

午後 2 時49分閉会

